

## 必修に向けて学校として何にどう取り組むのか

岡山市立西小学校 藤井佐代子

西小学校では週1時間の英語活動をはじめて3年、今年は中学校区での取り組みに力を入れている。

ねらいを、「英語を聞いたり話したりして、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度と慣れ親しんだ英語を使う力を育成する。」とし、低学年は20時間、中学年は35時間、高学年は40時間の授業時数を確保している。

小学校で育てておきたい事項を考えると共に、小中連携を踏まえて、9年間のカリキュラを作成、検討もしている。

年間計画の見直しや、毎時間の活動案の見直し・教材開発にも力を入れている。オリジナルDVDを作成中である。(3月にはできるはず)

1単位時間の基本的な流れの中で、他の教科と同じように「めあて」を重視している。提示し子どもにも意識させる。授業の中で一つのターゲットを40回以上触れるように工夫している。子どもたちは飽きるので、あの手この手で触れ、定着させるよう活動の工夫をしている。

教師はクラスルームイングリッシュを使うが、はじめからオールイングリッシュではない。教師も実力を付ける中で、徐々にオールイングリッシュに近づくように考えている。教師の英語力は課題の一つである。

上学年の英語劇を観劇するなど異学年交流もしている。6年生が下学年の教室に行きインタビューをしたり、英会話体操をしている。6年だけではできにくいことが、下学年のまえだとかんばってすることがある。(Rainy Day Shower, Wednesday Shower)

研究授業で力量のアップを図っている。職員研修で言語習得理論や教授法の研修を取り入れたり、小学校英語活動指導者認定検定に受検したりしている。(ほとんどの先生が合格) Monday Shower として毎週月曜日職員終礼前5分間 英語活動で使えるゲームや歌を練習している。

学校で学んでいる英語活動を「英語ファイル」として持ち帰らせ、家庭へ広めている。保護者には評判がいい。

中学校への効果的な接続を考え、学期に1回中学校教員による6年生への授業を実施している。

必修に向けて平成20年度に備えることとして以下のことが大切である。

## ①時数と年間計画

- ・1年から4年までの英語活動をどうするか。
- ・5・6年の総合的な学習の時間の英語活動をどうするか。

## ②公務分掌に担当者を

## ③担任の指導力の向上を

## ④教具の充実を

## ⑤国際理解教育の充実を

## ⑥中学校との連携を

- ・形式的なものではなく、十分な意見交換をして、6年と中1の接続部分を話し合う。



佐藤先生の指導講評（藤井先生分）



目標が具体的でわかりやすい。

少ないALTを十分活用し，西小独自の工夫をしっかりとっている。

小中の9年間の流れの検討がすばらしい。年間計画の見直し，実践の積み重ねを整理し，残しているところがすばらしい。6年生の下学年への英語を通してのかかわりは見事である。